

北海道が わかる つながる かわる

広報紙

ほっかいどう

— 年6回 奇数月にお届けします —

2012
9月
平成24年9月発行
通巻194号

特集 夢を応援！北海道の人づくり

地域を動かすのは人材力。 未来へ羽ばたく担い手を育て、 北海道をもっと元気に！

北海道の未来を切り拓いていくには、人づくりが重要です。意欲ある人材を応援し、夢を実現できる場を広げることが、地域や北海道全体を発展させる新たな活力となっていきます。



活力ある新生北海道を切り拓くため、未来を担う創造性豊かな人づくりを推進します。

北海道知事 野村 鶴子

人づくりは、新しい時代への挑戦。

意欲ある人材を育て、地域経済をたくましく

時代や社会環境が大きく変化するなか、北海道が未来に向かって着実に前進していくためには、地域を中心に経済を活性化させ、北海道全体で自立した経済構造をつくっていくことが必要です。

地域活性化のエンジンは、人の力。地域を支える皆さんの熱意が次の世代にもしっかりと引き継がれるよう、新しい視点を柔軟に取り入れながら、変化に強い経済基盤をつくることのできる人材が求められています。

北海道の自立的な発展を願って、道は、新たな時代に向けた人材育成の取り組みを進めています。

北海道発展のために、未来への種まきを

次代を担う人づくりは、未来への大切な種まきです。その意味で、「ボーズ・ビー・アンビシャス〈青年(少年)よ、大志を抱け〉」の言葉で知られるクラーク博士は、北海道における人づくりの先駆者といえるでしょう。1876年、札幌農学校(現・北海道大学)の初代教頭となったクラーク博士は、熱心な教えによって学生の意欲を高め、多くの優れた人材を世に送り出しました。

明治と平成、時代は違っても、人づくりは北海道発展のカギを握る、普遍的で重要なテーマです。

人が輝く、 元気な北海道をつくらう。

いまから未来へ、道の目指す人づくり

道では「地域経済の再生と未来を拓く経済構造の確立」を目指した人づくりに取り組んでいます。

その一つは、地域経済の基盤となる「産業の担い手づくり」です。特に農林水産業、食・観光、ものづくり分野など、北海道の優位性を活かしつつ将来の成長が期待できる産業分野で新たな担い手を育成することは、地域活性化の大きな力になっていきます。

もう一つは「未来の人づくり」です。次代の担い手となる子どもたちが、これからの社会に必要な能力を磨き、社会に出る準備としてしっかりとした職業観を育んでいけるような教育の取り組みを学校内外で進めています。

人材育成は、息の長い取り組み

人材育成は、一朝一夕にできることではなく、長い年月を要する取り組みです。時代を超えてつながるバトンリレーのように、いまを生きる私たちがしっかりと人材育成に取り組み、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

北海道を理解し、世界に視野を広げられる、新世紀の北海道づくりを担う人材をみんなで育てていきましょう。

次代の人づくり、
続きは
次のページで！



キャラクター
コウホウ氏

詳しくは
中面へ

産業の担い手づくり

北海道農業のリーダーを育てるために

北海道立農業大学校(本別町)

道立農業大学校は、北海道農業の発展を目指して地域のリーダーとなる担い手を育てるための2年制の専修学校です。

畜産・畑作・稲作・農業経営の4学科(全寮制)があり、専門知識を学ぶ授業に加え、牛舎や農場での実習を中心とした実践的な教育を行っています。

農業経営に役立つ資格・免許を在学中に取得し、農家実習や海外視察研修などで先進的な農業を学んだ学生たちは、卒業後に道内各地で就農の道を歩んでいます。

また、同校では、新規就農を目指す人向けに短期研修も行っています。



キャンパス内の牛舎で実習に励む若杉さん

▶道立農業大学校 ☎(0156) 24-2121

酪農はやりがいのある天職。実習で多くのことを学んでいます。

北海道立農業大学校畜産経営学科2年 若杉 敬太さん(標津町出身)

酪農家の4代目で物心ついたときから牛舎に親しんできたので、この仕事を天職と思って真剣に学んでいます。手応えがあるのは、授業で学んだことをキャンパス内の牛舎ですぐ実践できること。えさやりや飼育管理などの実習を繰り返すことで研究心が増し、牧場経営者に必要な「自分で考え行動すること」の大切さを実感しています。

卒業後はまず、人工授精師として修業しながら人脈を広げたい。その蓄積が、いずれ地元に戻って牧場を経営するときに、大きな励みと自信になるだろうと思います。



つくり育てる豊かな漁業を目指して

北海道立漁業研修所(鹿部町)

道立漁業研修所は、次代を担う漁業後継者の育成と、漁業者の知識・技術の習得やリーダー育成を目的とする研修の場です。

漁業後継者のための総合研修(全寮制)は5~11月。漁業に必要な知識と技術を学べる総合的なカリキュラムが組まれています。講義では、漁業制度や資源管理など、つくり育てる漁業のあり方を学び、技能実習ではロープワークや漁具製作、水産加工、操船などを学習。約半年間の研修で、漁業経営に必要な8つの資格を取得することができます。

生産から加工販売まで付加価値の高い漁業経営を目指し、即戦力として活かせる実践的な内容が特長です。



仲間と一緒に沖実習に取り組む北島さん(右)

▶道立漁業研修所 ☎(01372) 7-5111

一人前の仕事を覚え、現場で信頼される漁師になりたい。

北海道立漁業研修所 研修生 北島 武さん(別海町出身)

「将来は好きなことをしろ」と言われて育ちましたが、サケやホタテ漁を営む父の仕事ぶりを見て、自分も漁師になりたいと決心しました。研修所では全道から集まった漁業後継者と一緒に学び、寮生活も励みになっています。総合研修は実践的で中身が濃く、漁家研修や沖実習、網修理など、さまざまな経験をさせてもらっています。漁の現場の船上では何が起きるか分からないので、漁師には冷静さと瞬時の判断力が求められます。そのためにできるだけ多くのことを学んで、早く一人前の漁師として仕事をしたいと思っています。



道では、北海道の成長につながる重点分野で「産業の担い手づくり」に取り組むほか、次代を担う子どもたちの社会性や職業観を育てる「未来の人づくり」を進めています。

夢を応援!北海道の人づくり

人づくりを通じて、北海道の新たな可能性を広げます。

ものづくりの現場で学びを体験

ものづくり人材育成応援団「どさんこサポーターズ」

高度な技術で付加価値の高い製品を生産するものづくり産業は、北海道の成長につながる分野として期待が高まっています。

道内には、地域貢献活動として工場見学などの学習機会を提供する企業も多く、道では、こうした企業に「どさんこサポーターズ」として応援団になってもらい、ものづくり分野の人材育成に取り組む運動を進めています。

「どさんこサポーターズ」の登録企業は約100社あり、工場・職場見学のほか、各種体験や実演、講話、インターンシップなどのメニューを体験できます。



▶道庁人材育成課 ☎(011) 204-5098

工場見学で得た体験を子どもたちの成長の1ページに。

サツラク農業協同組合 市乳事業部(札幌市) 菅原 佳奈子さん



当組合では、地域貢献活動として工場見学に取り組んでいます。工場「ミルクの郷」には年間約9,000人*が訪れ、その大半が小学生。酪農家から集められた生乳が厳しい検査を経て製品化されるまでの工程を学ぶと、牛乳は健康な牛から生まれる自然の恵みだと実感するようで、「牛乳をつくるのって大変なんだね」という声もよく聞かれます。

私自身、子どものころからサツラク牛乳を飲んで育った一人。工場見学の体験が、子どもたちの成長過程の1ページとして刻まれることを願っています。

*ことしの工場見学の期間は4/29~11/4。



牛乳の製造工程を熱心に学ぶ子どもたち

未来の人づくり

生きた英語にふれ、国際感覚を学ぶ

北海道イングリッシュキャンプ

人や情報が国境を越えて行き来するグローバル化の時代を迎え、道では、国際社会で活躍できる能力を持つ人材の育成を進めています。

今年度は特に英語教育を重視し、小・中・高校生を対象に「北海道イングリッシュキャンプ」に取り組んでいます。これは年3回の英語漬けキャンプで、道内アカ所実施。外国語指導助手や留学生、通訳案内士、英語専攻の大学生などが講師となり、すべて英語で生活し、英語で北海道の魅力伝える方法を学びます。多国籍の外国人スタッフと覆食を共にする中で英語力が鍛えられ、子どもたちの学ぶ意欲も一層高まっています。



仲間や留学生とキャンプを楽しむ斎藤さん(左から2番目)

▶道教育委員会教育政策課 ☎(011) 204-5719

学校ではできない体験。英語を身近に感じるキャンプです。

北海道イングリッシュキャンプ参加生 斎藤 寧々さん(足寄町在住)

いまは中3で、足寄町の姉妹都市を訪ねてカナダに行ったのが1年前。「もっと話せたいのにな」と悔しい思いをしてから、英語を真剣に勉強するようになりました。このキャンプに参加したのも、英語力を上げたかったからです。外国人の先生とお互いの趣味や家族のことを話したり、一緒に料理をつくりたりするのは、学校ではできない体験。身近な地域のことを調べて英語で紹介する活動もあり、北海道のことをもっと知ろうと思いました。

将来は海外の大学に留学して、人とコミュニケーションのできる仕事がしたいと思っています。

お届けします!

赤れんが

道からのお知らせです。お問い合わせはマークの窓口、またはホームページへ。

節電期間は、9月14日(金)までです

夏から続く電力需給の厳しさにより、北海道において7%以上の節電が要請されています。引き続き道民の皆さんのご協力をお願いします。

●9月7日(金)までの平日 9~20時
●9月10日(月)~14日(金) 17~20時

節電・省エネにご協力ください

消費電力が大きい電気製品は、平日の夕方(18~20時)を避けて使用するが、使用する時間帯が重ならないよう工夫するなどのご協力をお願いします。

消費電力が大きい電気製品の例

- 電子レンジ ●IHクッキングヒーター
- トースター ●ホットプレート
- ドライヤー ●食器洗い乾燥機 など

省エネ3S(スリーエス)キャンペーン【夏の陣】にご参加を

「Save(節約)」「Select(選択)」「Shift(転換)」の3つの「S」をキーワードに、省エネ行動を呼びかけるキャンペーンを実施しています。

電気やガスの使用量を削減した方に抽選で道産米「ゆめぴりか」などが当たる「省エネアクションチャレンジ」も実施中。詳しくは特設サイトをご覧ください。

▶道庁環境・エネルギー室 ☎(011) 204-5319

ご存じですか?道営電気事業

豊富な水が導く北のエネルギー

道では、道内8カ所で水力発電所を運営しています。水力発電は純国産エネルギーであり、CO2排出量が非常に少ない再生可能エネルギーです。

現在、夕張市に、新たな水力発電所(シュンパロ発電所)を建設中で、ここでは年間約2万6千世帯に相当する発電を計画しています(平成27年度運転開始予定)。

なお、発電所運営で得たノウハウを提供するため、再生可能エネルギーの導入を目指す市町村にアドバイスも行っています。

▶北海道企業局発電課 ☎(011)204-5674

総合振興局 & 振興局

道内各地の話題をお届けします。

石狩振興局 「もっと知ろう!毎日の食べもの体験ツアー」実施

石狩振興局では、都市近郊の自然豊かな農村で気軽に農業を体験できるモニターツアーを開催中です。次回は9月26日(水)に千歳市の農園で野菜を使ったアイスクリーム作りを体験できるツアーを実施。今後の予定など詳しくはお問い合わせください。

▶農務課 ☎(011) 204-5844

日高振興局 門別競馬場で「秋のケイバまつり」開催

馬産地の競馬場として知られる門別競馬場で、「秋のケイバまつり」を開催します。日高の新鮮野菜や加工品が大集合する「ひだか特産市」など各種イベントが満載。どうぞご来場ください。

▶農務課 ☎(0146) 22-9348

道議会

北海道議会の概要などをお知らせします。

平成24年第2回定例会(6/19~7/6)

本年発生した低気圧や大雨災害などによる被災施設の災害復旧に要する経費や、(株)北海道エアシステム(HAC)に対する支援などの一般会計補正予算案など、全13件の知事提出議案をいずれも原案可決、承認議決しました。

一般質問(22人)では、HACに係る諸問題、電力需給対策、防災対策、原子力安全対策など道政上の諸課題について議論を行いました。

また、議員及び委員会提出議案として、決議案(1件)、意見案(9件)を原案可決しました。

▶北海道議会

可決した議員・委員会提出意見案(全9件)

- 一定規模以上の施設における調理師の配置の義務化を求める意見書
- 全国健康保険協会管掌健康保険に関する意見書
- 地方財政の充実・強化を求める意見書
- けいれん性発声障がい(SD)の研究・治療等の推進を求める意見書
- 「こころの健康基本法(仮称)」の早期制定を求める意見書
- 森林・林業・木材産業施策の積極的な展開に関する意見書
- 道路の整備に関する意見書
- 義務教育の機会均等の確保と教育予算の確保・拡充を求める意見書
- ロシア首相の北方領土訪問に抗議し領土問題の解決促進等を求める意見書

9月・10月は「北海道がん征圧・がん検診受診促進月間」

～検診は、声かけあって、みんなまで予防～

道内においてがんの予防、早期発見に向けた取り組みを一層推進するため、9月・10月の期間、全道各地で集中的にイベントを開催しますのでご参加ください。

日付	イベント名	会場
9/9日	北海道がん闘闘医療フェスタ2012	北海道がんセンター(札幌市)
9/12日	がん検診受診促進講演会	とかちプラザ(帯広市)
9/13日	チャリティコンサート2012 in 北海道	札幌市民ホール(札幌市)
10/19日	第45回がん予防道民大会	千歳市民文化センター(千歳市)

▶道庁地域保健課 ☎(011) 204-5117

労働トラブルの解決を支援 個別的労使紛争あっせん制度

突然の解雇や賃金未払いなど、個々の労働者と使用者間に発生した労働紛争の解決に向け、専門のあっせん員がお手伝いします。

利用は無料で当事者のプライバシーは厳守。札幌から遠い地域は現地に出向きます。どうぞご利用ください。

▶北海道労働委員会事務局 ☎(011) 204-5667

秋の全国交通安全運動

9月21日(金)~30日(日)

秋は、日没時間が早まり、夕方から夜間にかけての交通事故が心配されます。夕暮れは特に、前をよく見て運転しましょう。

また、歩行者は夜光反射材を活用し、自転車も交通ルールを守り、交通事故に気をつけましょう。

▶道警本部交通安全課 ☎(011) 251-0110(内線5062)

十勝総合振興局 「とかちの食イベントはしごラリー」実施中

十勝の食イベントを巡るスタンプラリーを実施中です。対象イベントで押印した台紙を次のイベントに持参すると、各会場先着50人に抽選会参加のチャンス、さらにスタンプ2個以上で賞品が当たる応募のチャンス。あなたもチャレンジしてみませんか。

▶とかち魅力発信推進室 ☎(0155) 26-9014

榎山振興局 民間企業との連携で「ひやま物産・観光フェア」

イトーヨーカ堂との連携で、榎山の農産物・水産加工品の販売や観光PR、江差道分の実演を行います。地元の方も観光の方も、お気軽にお立ち寄りください。

▶商工労働観光課 ☎(0139) 52-6642

可決した議員提出決議案(全1件)

- 第32回オリンピック競技大会及び第16回パラリンピック競技大会東京招致に関する決議

次回定例会のお知らせ
平成24年第3回定例会は、9月11日(火)開会予定です。日程などの最新情報は、ホームページなどでご確認ください。

▶北海道議会

～ホームページをご覧ください～

道議会ホームページでは、本会議・予算特別委員会のインターネットによるライブ中継など、さまざまな情報をご覧いただけます。また、メールマガジンに登録いただくと、定例会開会前と定例会閉会后に、議会の情報が配信されますので、ぜひご利用ください。

▶議会事務局政策調査課 ☎(011)204-5691

ちよびエロ

使っていない部屋の照明を消すと、約7%の節電効果よ!

※3割程度消灯の場合。ピーク時消費電力に対する削減率の目安(資源エネルギー庁)

40年ぶりに亜麻を復活! 農業、健康、観光を結びつけ、 地域の産業資源に。

北海道亜麻ルネサンスプロジェクト



亜麻畑で記念撮影するプロジェクトの皆さん

道内では開拓使時代から繊維原料として栽培され、1960年代後半に姿を消した亜麻。北海道亜麻ルネサンスプロジェクトは、その種子から抽出される油の保健機能に注目し、40年ぶりに復活させました。当別町や札幌市などの複数の団体・企業が運営し、生産、製造、販売まで手掛けています。

商品の開発や販路拡大だけでなく、景観を活かしたイベントを開いたり、かつて亜麻畑や製麻工場があった地区と交流するなど、地域の産業資源に結びつく活動も積極的に行っています。

亜麻復活の企画段階から関わってきましたが、当初は戦前の栽培資料しかなく、無農薬栽培による収量が安定するまで苦労の連続でした。0.1haの畑から始め、現在の作付けは5.6ha、年間収穫量は5トンほどです。

亜麻仁油には、生活習慣病の予防効果があるといわれ、もっと多くの方にその価値を知ってもらおう努力は惜しみません。毎年7月に当別町で開く「亜麻まつり」に、こしは3,000人ほどの観光客が訪れました。

▶お問い合わせ (有)亜麻公社(亜麻仁油開発製造) ☎(011)731-8588

亜麻の価値をもっと広め、
食文化として根づかせたいです。



(有)亜麻公社
執行役員 研究主任
内藤 大輔さん

つながる! ひろがる! 北海道物語

食クラスター編

農業 × 商業

食のブランド化を目指し、農業と商工業がつながることで生まれた魅力ある取り組みをご紹介します!

農業 × 商業

黒千石事業協同組合

1970年代まで土壌改良や馬の飼料用として道内で栽培されていた大豆、黒千石。栽培が難しく、農耕馬も減少したため、生産は途絶えていました。

復活のきっかけは小粒の大豆を求める納豆メーカーの要望。2001(平成13)年に森町の農業研究家が原種28粒の発芽に成功し、北電町の農家が栽培用の農地確保に奔走しました。

その後、黒千石事業協同組合を組織し、乙部町、滝川市、岩見沢市など道内9市町へと生産農家も広がりました。また、食品製造会社と連携して、黒千石茶などの商品化にも成功しています。

黒千石は軍馬のエサになったほど栄養価の高い豆です。免疫力を高めるとされるポリフェノールは、豆類の中でも特に多い小豆の約2倍*も含まれています。

やせた土地に向く作物ですが、栽培期間が長いので農家泣かせ。5月の連休に種をまき、緑の葉が落ちる10月末まで収穫できず、初雪の被害にあう可能性も高いのです。流通会社の倒産で苦労した年もありましたが、あきらめずに全国の加工業者を巡り、協力者を増やしました。

*日本食品分析センター・データより 写真提供/北電町ポータルサイト運営協議会
▶お問い合わせ 黒千石事業協同組合 ☎(0164)34-2377



今年度は150トンの収穫を見込んでいる

雪のリスクはあるけれど、
それだけ価値も高いのです。



黒千石事業協同組合
代表
高田 幸男さん

知ってる? 北海道自慢

北海道が始まりのものやナンバーワンには、こんなエピソードがありました。

英国留学の思い出から 男爵いもの栽培が始まった。

男爵いも発祥の地 **七飯町**

日本で初めて男爵いもを栽培したのは、函館ドックの川田龍吉男爵です。

英国留学中に食べたジャガイモが忘れられず、1908(明治41)年、11種の種イモを輸入して七飯町で試験栽培。その中で優良な品種が近隣農家へ広まり、「男爵いも」と命名され、全国に普及しました。

男爵はドック退社後、当別(現・北斗市)に新しい農場を開き、農業の機械化を試みました。現在は、その地に男爵資料館があり、当時の農機具や川田男爵の資料を展示しています。

▶男爵資料館 ☎(0138)75-2894



男爵いもの父
川田龍吉男爵

それゆけ! 赤チャレ!

道の人材や施設を活用し、特別な予算を使わずにサービス向上を目指す「赤レンガ・チャレンジ事業」(ゼロ予算事業)の取り組みを紹介します。

「北海道景観づくりサポート企業登録制度」で
まちの景観づくりに取り組む
企業や団体を応援。

沿道の花壇づくりや清掃活動などに取り組む企業・団体を応援するため昨年度スタート。

景観づくりに関する情報を企業等に提供、職場研修等への講師の派遣も行います。

道のホームページでは登録企業等を紹介、各地の活動レポート等の「景観だより」を公開して応援しています。景観づくりへの取り組みをぜひご覧ください。

▶北海道景観づくりサポート企業登録制度 検索

▶道庁都市計画課 ☎(011)204-5563



景観だよりを公開



登録企業にロゴマーク提供

お知らせ BOX

ツイッターで情報発信中

道では、道庁ホームページやブログなどと連動して、さまざまな情報をツイッターで発信しています。どうぞご利用ください。

アカウント @PrefHokkaido

北海道庁広報ツイッター 検索

静岡県からのお知らせ

第3回 秀景ふるさと富士 写真コンテスト

静岡県では、全国の「ふるさと富士」の写真を募集中です。蝦夷富士(羊蹄山)や利尻富士(利尻山)など、道内各地の富士の写真を応募しませんか。詳しくはホームページをご覧ください。

応募期間 12月23日(日・祝)まで 当日消印有効

ふるさと富士写真コンテスト 検索

▶お問い合わせ 静岡県交流政策課 ☎(054)221-3375

▶道庁広報広聴課 ☎(011)204-5110



羊蹄山



クイズに答えて道産品を当てよう!

クイズでプレゼント!

クイズ回答者の中から抽選で60名様に、「調味料選手権2011」で入賞したにしん味噌、一興業水産(株)「にしんのおかげ」(2個セット)をプレゼント!

●当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。



【問題】このキャラクターの名前は何か? (ヒント)

〇〇に入る文字をお答えください。
「環境忍者〇〇之助」
【ヒント】
中面左ページのどこかいます。
©北海道環境宣言

●応募方法:クイズの回答、住所、氏名、年齢、電話番号、本紙への意見・感想を記入の上、ハガキ、パソコンまたは携帯サイトでご応募ください。

●応募先: ハガキ 〒060-8588 北海道広報広聴課 携帯サイト 「クイズでプレゼント!」係

パソコン 広報紙「ほっかいどう」 検索

●応募期限:9月28日(金)必着
応募いただいた方の個人情報は、当プレゼントの発送以外には使用いたしません。



北海道の人口	平成24年6月末	前年同月比
総人口	5,479,689人	23,255減
男	2,595,430人	13,517減
女	2,884,259人	9,738減

*人口は年4回公表される統計資料に基づき直近のデータを掲載しています。

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

VEGETABLE OIL INK

次号のお知らせ 11月号は11月7日(水)から配布予定です。

●掲載記事の関連ページ、広報紙アンケート結果、広報紙のバックナンバーなどの閲覧は下記からアクセスできます。

広報紙「ほっかいどう」 検索

※この広告は、広告主の責任において北海道が掲載しているものです。

広告